

健康づくりのパートナー 一人一人に寄り添う薬剤師

対談

10月17日〜23日までの1週間は「薬と健康の週間」。

医薬品を正しく使用し、薬剤師が果たす役割の大切さを知ってもらおうと、全国各地でさまざまな啓発活動が行われる。公的医療保険の持続性を高めていくことが求められるなか、日本薬剤師会の岩月進会長とフリーアナウンサーの平井理央さんが、薬局や薬剤師との向き合い方、自身の健康維持など幅広いテーマで語り合った。

「自分の健康は自分で守る」をサポート

平井 1児の母として家族の健康状態に気を配り、自身でも健康に関する知識の習得に努めています。薬の効果と副作用など医学に関する適切な情報を集め、正しく理解する大切さを再認識する日々です。

岩月 まず重要な点は、ご自身で健康管理する「セルフケア」です。特別なことではなく、平井さんが、ご自身やご家族の様子をチェックしているように、毎日の血圧測定など日々の体調や異変の有無を知ることがあり、できるだけその内容を記録しておくことをおすすめします。そして、風邪のような症状や軽いけがの時には、ご自身で市販薬を購入し、治療していく「セルフメディケーション」も可能です。「自分の健康は自分で守る」ことを意識いただき、薬剤師はそれをサポートしていきます。

平井 かかりつけの薬局や薬剤師の探し方について教えてください。

岩月 薬局や薬剤師と利用者の関係も同じです。全国に薬局は約6万3000軒あり、そこで働く薬剤師は約18万人います。それぞれに個性や特徴があり、自宅や勤務先近くの薬局の雰囲気や薬剤師とのやりとりを通して選んでいただければと思います。かかりつけ薬剤師がいれば、転勤や進学で引越したとしても、転居先にある薬局の薬剤師に処方歴を含むさまざまな情報を提供することで、継続して薬を安全に使用することが可能となります。

政府は関係機関と協力し、薬局の機能を高めています。例として、地域住民の健康を総合的に支援する拠点「健康増進支援薬局」、がんなど専門性の高い薬物治療に医療機関と連携して対応する「専門医療機関連携薬局」、入退院時や在宅医療、ターミナルケア（終末期医療）に積極的に対応する「地域連携薬局」が法律で制度化されました。

ついでに。



人口減 高齢化社会
にも柔軟に対応

平井 一人暮らしが増え、薬局に行くのが難しい高齢者もいらっしゃると思います。

岩月 患者さんの自宅に訪問する在宅薬剤師の役割は今後、さらに大きくなるでしょう。服薬状況だけでなく、ご家族や介護利用の状況や詳細な生活環境を把握し、医師と連携し、療養環境に合わせた薬学管理を実施しています。プライバシーな情報に関わることなので、信頼関係を築くように努力しています。その第一歩が会話ですね。平井さんはお仕事上、インタビューで工夫されていることはありますか。

平井 無理に聞き出すのではなく、相手に合わせたオーダーメイド型の対応を心がけています。例えば、酷暑だった夏の過ごし方など身近なテーマについて自分の体験を伝えることで、お互いの距離が縮むと感じます。

岩月 なるほど、一人一人に丁寧に向き合うことが大切ですね。ところで、日本は人口減と超高齢社会を同時に迎える、医療も新たな対応が求められています。例えば、山間部や島しょ地域では利用者が減るとい理由で薬局が撤退すれば、その地域の人々の健康に大きな影響を与えます。薬の配送を含めさまざまな対策を練ることが不可欠で、それは災害時にも応用できます。

一方、高齢者は複数の疾患を抱えることが多く、さまざまな薬が処方されがちです。複数の薬を服用して有害な症状に悩まされるケースも報告されています。いわゆるポリファーマシー問題です。ポリファーマシーは単に服用する薬の数が多くのことではなく、多くの薬を服用しているために、副作用を起すこと、適正に薬を飲めなくなったりしている状態をいいます。そのような場合には、かかりつけ薬剤師を上手

に活用していただくことで、複数の医療機関から処方されている場合にも薬の重複や飲み合わせなどのチェックなどが容易になります。

薬剤師・薬局を
上手に活用

平井 少子高齢化の進行による医療費の膨張が近年の重要な課題になりました。その対策として最近では市販薬と成分や効果が似ている「OTC類似薬」が保険給付の見直しの対象になっています。

岩月 必要な医療、医薬品は保険で給付を行うという、国民皆保険の理念を守り、多角的な議論から始めるべきです。OTC類似薬には、解熱鎮痛薬や湿布薬など多数ありますが、もしこれらの薬が保険対象から外れた場合に、患者さんが受診を控えてしまうことでかえって重症化する恐れも指摘されています。医療費の抑制効果だけに焦点を当てた議論には疑問を感じます。

平井 現代社会においては薬剤師の役割はより多様化し、一層重要になっていきますね。

岩月 その通りです。一方で、時代は変わっても、国民の健やかな毎日をサポートする薬剤師の基本的な役割は変わっていません。薬剤師法第1条には薬剤師の任務について「国民の健康な生活を確保する」と明記されています。多くの皆さんにセルフケア・セルフメディケーションの意識を持っていただくことは大変重要です。薬剤師・薬局を上手に活用してください。ご自身の健康維持・管理のため、薬局に気軽に立ち寄り、薬や健康について何でも相談していただくことをおすすめします。

かかりつけ薬剤師へ気軽に相談を



フリーアナウンサー
平井 理央さん

2005年、慶應義塾大法学部卒業後、フジテレビ入社。「すばると」のキャスターを務め、オリンピックなどのスポーツ報道に携わる。退社後、フリーアナウンサーとして活動する傍らチョコレートブランド「VIVID CACAO」を起業。

日本薬剤師会
岩月 進 会長

1978年、名城大薬学部を卒業後、塩野義製薬に入社。81年、愛知県刈谷市にヨシケン岩月薬局を開設。2004〜10年、20〜24年に日本薬剤師会常務理事を務め、24年6月、第26代会長に就任。

公益社団法人
日本薬剤師会
Japan Pharmaceutical Association



47都道府県薬剤師会の会員をもって組織する職能団体です。「薬剤師の倫理高揚と学術振興に努め、薬学・薬業の発展を通じて、国民の健康な生活の確保・向上に寄与すること」を目的に、薬剤師の生涯学習、医薬品適正使用の推進など、幅広い活動・提言を行っています。

広告 企画・制作／毎日新聞社営業総本部

3つの安心を守る。

処方箋の調剤から、OTC医薬品のアドバイス、健康の相談まで。薬剤師は、薬や健康の維持・予防に関わることを気軽に聞ける専門家。聞いて、寄り添い、支える。すべてが、薬剤師の仕事です。まずはなんでもご相談ください。

公益社団法人
日本薬剤師会
Japan Pharmaceutical Association

NPhA
Nippon Pharmacy Association
一般社団法人
日本保険薬局協会

JACDS
一般社団法人
日本チェーンドラッグストア協会

1 薬を正しく使う安心

薬を渡すだけでなく、薬歴を確認し、使い方や注意点を丁寧に伝えるのも薬剤師の役割です。

2 市販薬選びの安心

市販薬選びの相談も薬剤師へ。体調に合った最適な薬を提案し、セルフケア・セルフメディケーションに寄り添います。

3 体調の相談ができる安心

生活習慣や健康不安の相談も。地域の皆様の健康を支えます。